

農空間

第73号

発行所
福島県農林水産部
農村計画課



【特集】 毎年4月は、 農業水利施設の 『施設強化月間』です!!

福島県には、農業水利施設が約7千施設あり、受益面積が100ha以上の基幹的用排水施設は、全長約1kmにも及びます。これらの施設は、造られてから相当な年数を経過したものが多く、いかに長寿命化を図り、計画的に整備補修や更新を行っていくのが課題となっています。これらの課題に対応していくため、各施設管理者がそれぞれの施設を把握し、予防保全的な対策を実施していくことが必要です。農水省では、平成26年にインフラ長寿命化行動計画を策定し、平成32年度までに、対象施設の個別施設計画を策定することとし、土地改良長期計画にも、基幹的農業水利施設の機能保全計画の策定率が成果目標として位置付けされたところですが、福島県の策定率は35%であり、全国平均の62%を大きく下回っている状況です。

そのため、県としては、県独自の施設管理システムを更に充実し、これら施設の管理を適切に行っていく考えです。

施設管理システムは平成20年度から始まり、各施設管理者が施設管理台帳を整備し、施設の点検診断を行い、整備補修・更新計画を策定し、計画的に対策工事を実施していこうというもので、平成30年度は、簡易な農業用施設について、個別施設計画を各施設管理者が作成できる



体制を目指します。

施設の「点検・診断」は、施設利用者にとっては内容が難しく、継続の妨げとなっている事例が見受けられます。詳細な点検が必要な施設もあれば、普段の利用状況の確認で十分な施設もありです。今まで蓄積されたデータも、情報の引き出し・加工・分析に時間を要し、情報の紛失や死蔵化されている事例も見られます。このため、日常・定期・臨時の点検結果を基に、常に施設の劣化予測が出来て、補修履歴を簡単にまとめられる体制を整備していく計画です。

4月以降、施設点検など関係の方々にはお手数をおかけしますが、よろしくお願ひします。

【農林水産部 農地管理課】

県内からの便り

「みんなが輝く園芸産地と交流の郷」を目指して!

南会津農林事務所

神奈川県とほぼ同じ面積がある南会津地域は、約93%が森林で、阿賀川、只見川、伊南川沿いの狭い平地(厳密にはほとんどが1/100以上の傾斜地)に集落、農地が開けており農地は約3,700haで全体の約2%です。中山間地域の例に漏れず65歳以上の割合が約8割と高齢化が進んでおり、農業担い手の不足が深刻となっています。夏季の冷涼な気候を活かして、トマト、アスパラガス、リンドウ、かすみそう等の施設園芸が盛んです。

農地は傾斜地が多いことから、小さな区画が多く、国の補助事業ができた昭和30年から50年代にかけて、ほぼ全域の基盤整備が完了しましたが、近年、所得向上のための施設園芸の更なる拡大と、生産コストの低減のため、地域の農業担い手への集約・集積の機運が高まっており、農地中間管理事業などを積極的に活用しながら、農地の更なる大区画化、畑地への転換、集団化、集積を進めるための再整備を行っているところ です。

【経営体育成基盤整備事業】
倉楡地区(H20~29)
田部地区(H28~32予定)



【施工前】区画4アールの田部地区(H29.5)



区画50アールに再整備をしている施工の様子です。
区画を拡大し集積を進めます!



【農村整備部】

南会津地域は県内でも特に雪が深く、自然環境に配慮しながらの整備は難しい一面があります。これらの農地整備と中山間地域の環境整備を軸に、みんなが輝く園芸産地と交流の郷を目指し、事業を推進してまいります。

【中山間地域総合整備事業】
南会津西部地区(H23~32予定)
下郷地区(H30~34予定)

相双農林事務所 ニューズ

国の補助を受けて、平成24年度より海岸災害復旧事業に取り組んできた檜葉町の「山田浜地区」の海岸堤防工事が今年1月に完了しました。延長652m、総事業費は約30億円です。これにより相双管内で津波により被災し、災害査定を実施した16農地海岸のうち、9海岸が完了しました。

度重なる台風による波浪や強風に見舞われ、工事が中断することが多く、工程の見直しを余儀なくされましたが、堤防法面の被覆にコンクリート製二次製品の残存型枠を多用することにより、資材や作業員不足の解消と工期短縮を実現させました。



【施工中】押し寄せる高波(H27.10)

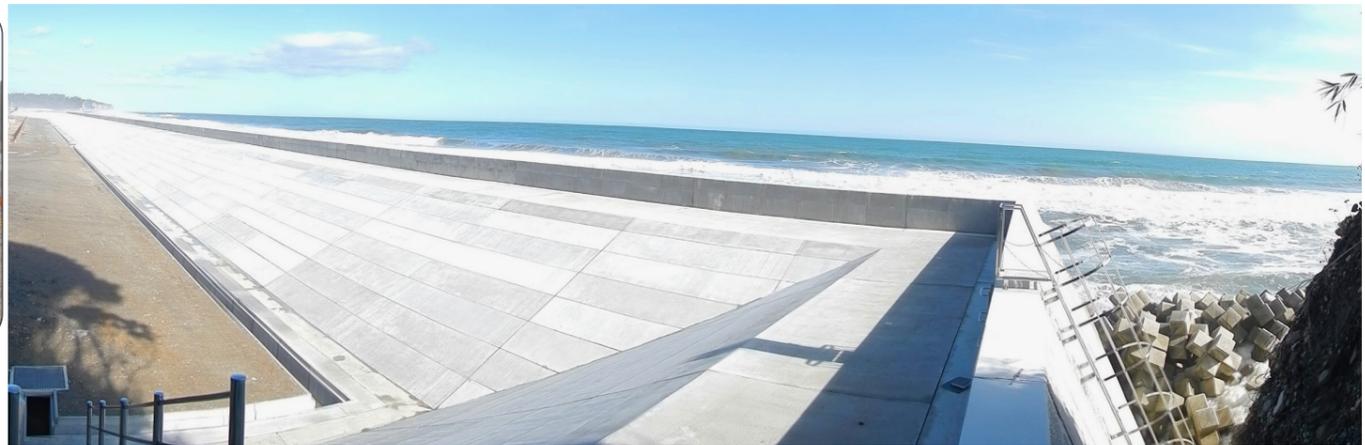
堤防高を被災前から2.5m高上げて8.7mにするとともに、現在背後地で合わせ行っている県道や海岸防林の整備により、当地域は「多重防壁」の防災機能を備えた安全で安心できるまちづくりの実現へ着実に前進しています。

結びに、当地区海岸は復旧当初より県外派遣職員からなる福耕支援隊(町田昌司さん「埼玉県」井上浩行さん「滋賀県」)の多大な協力と施工業者の努力、綿密かつ安全に細心の注意を払った工程管理により、予定よりも1年早く完了することができました。厚く御礼を申し上げます。

【農村整備部農村整備第一課】



↑ 応急復旧後に再被災(H26.4)



【施工後】復旧完了(H30.1)→

地域に根ざした 水土里ネット

県北

「西根堰(にしねせき) 開鑿400年を迎えて」



伊達西根堰土地改良区は、福島県の北部、福島県と宮城県との県境に位置し、福島市・伊達市の一部、桑折町及び国見町の2市2町に広がる水田・畑約1,300haを受益地とする土地改良区です。

昭和26年に、水利組合から土地改良区に組織変更し、昭和40〜50年代に県管かんがい排水事業で整備した2本の幹線用水路・頭首工と、本事業により新設された藤倉ダムを維持管理しています。

現在、施設の老朽化が進んだことから、平成24年度から単基幹水利施設ストックマネジメント事業による補修・更新を実施しています。

さて、本土土地改良区名称の由来である「西根堰」は、江戸時代初期に米沢藩の領主上杉景勝により「西根下堰(したせき)」が1618年に完成しました。そのため平成30年(2018年)で開鑿400年を迎えることとなります。

現在の施設はコンクリート水路に姿を変えています。随所に往時の姿を残しており、平成

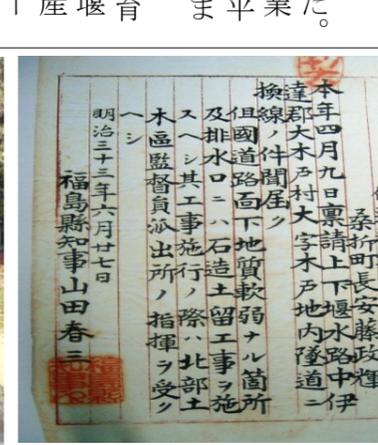


また、平成29年度から開鑿400年に向けた事業として「西根堰ふるさとウォーク」を地元自治体・新聞社との実行委員会により実施しています。



土地改良区では、水土里を育む普及促進事業による「西根堰の隧道探検」や「選奨土木遺産「西根堰」ノルディックウォーキング」を実施し、土地改良施設のPRや安全対策の啓発を図っています。

22年度に社団法人土木学会の、選奨土木遺産に認定されました。また、地域の小学生の出前授業や見学学習などの場として、平成29年度は17校の利用がありました。



西根上堰(うわせき)頭首工「大正時代」と「今の姿」

西根堰ノルディックウォーキング

明治33年水路の隧道工事許可文書

農林技術課からの情報

福島県農林水産部農林技術課では、農林土木工事の進行管理、設計基準管理、農林土木研修等を担当しています。今年度実施した研修の状況について紹介します。

当該で実施している研修は、農林土木技術研修実施要領により、基礎研修(初任者、自治法派遣職員)と中堅職員研修、リダー研修、実習演習(測量)、実習演習(現場監理)、部門別設計研修等です。本庁各課の技術力のある事業担当の主任主査や主幹を講師として、技術力アップを目指しています。

経験4年目を対象とした中堅職員研修は、いわき農林事務所のご協力により11月に開催しました。若手職員21名は、担当業務や現場代理人とのコミュニケーションの状況、工夫についての意見交換会(現地研修は復興再生基盤整備事業いわき地区、復興基盤総合整備事業夏井地区、復興基盤総合整備事業新舞子地区)を実施しました。その後行われた情報交換会では、浜通りのおいしい野菜、新鮮な海産物などを味わいました。

実習演習(現場監理)は1月に、相馬市の水産種苗研究生産施設(稚魚、稚貝飼育)と海岸を守る海岸防犯林造成事業相馬地区等で開催しました。次年度以降も同様な研修を実施する予定です。



中堅職員 経験4年目研修(夏井地区)

新規採用職員の紹介

① 県北農林事務所 農林整備課 後藤 真実
② 山形県米沢市
③ 食産業学部 環境システム学科



④ 私は県外出身ですが、国見町で農業をしている祖父のおかげで福島県産物を食べて育ちました。大学で農業土木分野を学ぶうちに被災した福島県の農業基盤整備に携わる仕事がしたいと思い、本職を希望しました。現在、復興基盤総合整備事業山木屋地区とため池等整備事業滝池地区を担当しています。まだまだ未熟ですが、日々の業務の中で多くのことを吸収し、福島県の農業振興に貢献できるよう頑張ります。

① 相双農林事務所 農村整備第一課 伊藤 元照
② 伊達市
③ 農学生命科学部 農業環境工学科
④ 実家は農業を営んでおり、昔から農業に興味がありました。大学では農業土木を学び、勉強しているうちにもしるさを感じていたので、もう少し農業土木に携わってみたいと思います、この職を志しました。海岸工事を担当しており、現在は小浜地区の堤防復旧に携わっています。まだまだ未熟者ですが、自分なりに一生懸命仕事に向き合っていきたいと思っています。



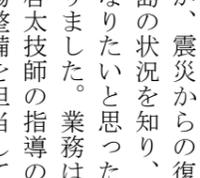
① 南会津農林事務所 農村整備課 南川 駿
② 東京都世田谷区
③ 地域環境科学部 生産環境工学科
④ 大学で学んだことを生かせる所に行きたいと思い、志望しました。農道整備の監督員、委託業務、水土里を育む普及促進事業等を担当しています。どの仕事でも分からないことが多く、先輩方の助けをお借りしてなんとかやっている毎日です。目の前の仕事で手一杯のことが多かったため、もっと全体を把握してスムーズで良い仕事ができるように頑張っていきたいと思っています。



相馬市の水産種苗施設での研修

- ① 所属・氏名
② 出身地
③ 学生時代の専攻
④ 志望動機・担当業務・抱負

① 相双農林事務所 農村整備第一課 小久保 俊
② 栃木県宇都宮市
③ 地域環境科学部 生産環境工学科
④ 私は栃木出身ですが、震災からの復興・復興を目指す福島県の状況を知り、微力ながらその力になりたいと思ったことが志望動機となりました。業務は福田一夫副主査と星啓太技師の指導の下、南相馬市内のほ場整備を担当しています。先輩方の厳しい叱責に心が折れそうになることもありましたが、ありがたい言葉と受け取り、日々勉強の毎日です。これからも向上心を忘れずに、焦らずやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



「農空間」とは... 農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間の事です。

